



あのお



令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

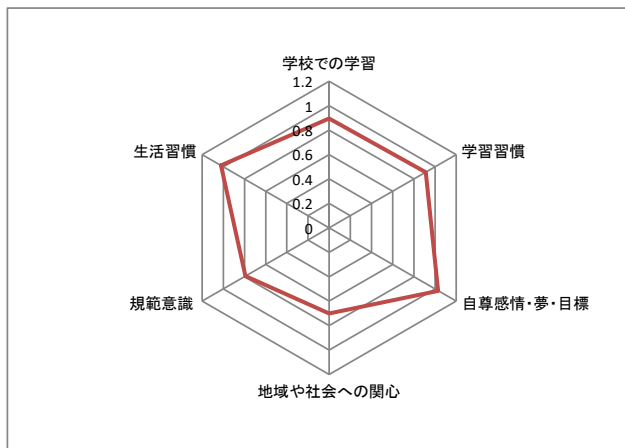
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に全国平均を下回っている。特に、「言葉の特徴や使い方に関する事項」において前年度の漢字を正しく使ったり、文中における修飾と被修飾との関係を捉えたりする問題の誤答が多かった。 「読むこと」に関する問題は、比較的全国平均点に近い得点が採れていた。 	下回っている。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 図形の問題は比較的良好にできているが、思考を必要とする記述式問題になると正答率が下がる。 全体的に全国平均点を下回っている。解答率が高い。立式を問われる問題や思考を記述する問題に無回答率が高い。 	下回っている。

2.



質問紙調査の結果分析

学校での学習や生活習慣、規範意識、自尊感情・夢・目標等の設問では、ほぼすべてで80パーセント以上の児童が肯定的な意見を回答し、全国平均よりも上回っているものもある。これからも、短期、中期、長期にわたる目標設定や学校生活全体を通して道徳科等で学習したことを児童の生活に生かしていくようにする。

コロナ禍の中で、地域の行事や催事が行われていない現状にある。そのため、地域や社会への関心のポイントが一昨年度より下がっている。

家庭での学習習慣も年々、定着は進んできている。しかし、それが学力向上に結びついてはいない。そこで、学習の仕方の紹介など、効率よく学習できる方法や内容を紹介し、「家庭学習がんばり週間」を全校で取り組んでいく必要がある。

3.

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 思考を記述する問題を苦手な児童が多いので、授業の中で考え方を記述する学習を全校で取り組めるようにしていく。
- 学力アップの時間に、基礎基本的な国語や算数の問題を取り組む活動を引き続き行っていく。
- 読書の時間等には、できるだけ読解力結び付くような読書指導を進めていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭での学習については、全校で現在行っている「家庭学習がんばり週間」が定着してきた。今後も保護者や教師がさらに内容や方法等についても助言し、意欲を高め、効果的な家庭学習を目指せるようにしていく。
- 基礎的な生活習慣の定着については、「北九州子どもを育てる10か条」や「穴生スタンダード」等の大切さを学校だよりや学年・学級だより等を通して、保護者との連携を継続していく。また、子どもたちにも道徳科や特別活動、保健の学習等を通して日常的に指導を続けていく。